

学校だより

H21. 10. 29 No.9



稲刈り、脱穀 実りの秋です

5月に全校で田植えをして育ててきた稲が、黄金色に色づき、収穫のときをむかえました。この間、竹内慎平先生には、子どもたちへのご指導とともに、除草や水見、網掛け等、様々な面でご協力いただきました。この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。

9月29日（月）には、1・6年生、2・4年生、3・5年生の姉妹学年ごとに、稲刈りを行いました。時折小雨がぱらつくあいにくの天候でしたが、子どもたちは張り切って田んぼにでかけました。始めはおぼつかない手つきでしたが、慣れてくるにしたがって、稲を刈るときの「ザク」という音と手ごたえを楽しみながら、リズムよく刈れるようになりました。落ち穂を丁寧に拾っていたのも、実際に稲刈りを体験したからこそではないでしょうか。

また、10月20日（火）には、全校を代表して4・5年生が脱穀を行いました。

さて、自分たちの手で育てたお米は、どんな味がするのでしょうか。12月に予定されている餅つき大会が、今からとても楽しみです。



落語の魅力を 十分に味わいました

8月には、「脩一朗&大地」の皆さんによる津軽三味線の演奏をお聴きして、「本物に直にふれる」ことの重要性を実感したことは、学校だより9月号でお知らせしました。そして、10月7日（水）のPTA講演会では、上田市出身の落

語家立川談慶師匠をお招きして、子どもたちもいっしょに落語鑑賞を行いました。

小学校1年生から保護者の皆様まで、幅広い年代が一堂に会する中での落語でした。「子どもたちの反応はどうだろうか」と思っていたのですが、さすがは談慶師匠、巧みな話術で体育館を笑いの渦に巻き込んでしまいました。その落語の面白さはもちろんのこと、「落語から人生の失敗経験を学んでほしい」という談慶師匠の話には、なるほどと心から納得しました。きっと、子どもたちにもその子なりに感じ取った何かがあったことでしょう。改めて、本物のもっている力のすごさを実感したところです。

このような貴重な場を企画・運営してくださったPTA学級長会をはじめとした役員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

